

平成27年1月16日

一般社団法人日本私立大学連盟  
会 長 清 家 篤

## 高等学校教育、大学教育及び大学入学者選抜の今後のあり方について

日本私立大学連盟では、中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」（平成26年12月22日）を受けて、私立大学の立場から、意見及び基本的な考え方を提言としてとりまとめた。

今後策定される「高大接続改革実行プラン（仮称）」や、専門家会議における新たなテストの内容及び実施方法等にかかる検討は、社会の最も重要なインフラである“教育”の質を保証することに直接関わるものであるとの観点から、私立大学の実情も踏まえたより実効性の高い方策の検討がなされることを願っており、本提言の内容を参考としていただくことを期待するものである。

### 1. 答申で示された改革の理念に対する意見

#### (1) 私立大学としての基本的考えかた

答申では、高等学校教育段階での「高等学校基礎学力テスト（仮称）」、大学入学者選抜段階での「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」と、二つの新たなテストが提言された。「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は、高等学校段階での基礎的な学習達成度（主として「知識・技能」）を把握することを目的とするが、その結果を調査書等に記入して大学進学時に資料として活用できることになっており、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」は、大学入試センター試験を廃止して実施され、「知識・技能」単独ではなく、その活用のために必要な「思考力・判断力・表現力」を中心的に評価するものとされている。これら二つの学力テストは、それぞれ評価する学力を段階的に異なるものとしており、さらに、これらに加えて実施が望まれている各大学の個別選抜では、学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）のうち、主として、上記二つの学力テストでは評価することが難しい、「主体性・多様性・協働性」に焦点を当て、小論文や面接等により多面的に評価するという、三要素・三段階にわたる学力評価のイメージが示されている。

本連盟では、新たなテスト構想を含む今回の答申は、わが国の教育観に大きな変化を促すものと受け取っている。つまり、大学入学者選抜が実施されるまでに、学力の三要素すべてを評価すべきものとし、かつ、大学においてもこれら学力の三要素を基本として教育を実施することが求められていると思われるからである。各私立大学は、調査書等に記載される「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の評価結果をいかに扱い、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」をいかに活用し、個別選抜をどのように実施するか、という問題に直面しており、これら新しい入学者選抜制度をいかに大学教育の質保証につなげるかが問われている、と言えよう。入試改革と教育改革を同時に成し遂げようとする答申の基本姿勢は大いに尊重するものではあるが、しかし新選抜方式を、その実施を前提として慎重に検討した結果、以下の諸点について、疑問や懸念を呈さざるを得ない。

- ①「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」は共に、複数回実施し、かつ段階別評価によって成績が示されるものとされている。これは、人生の進路が一回限り、一点刻みの試験で決定されることの弊を改めるために発案されたものであるが、そのために却って高等学校の学事日程を、また、入学定員との関連で、特に私立大学の入学者選抜方法を、ともに困難で複雑なものにさせるのではないかという懸念がこれまで各方面から表明されてきた。答申においては、これらの懸念を超えても、新しい学力テストにメリットがあることの説明が十分にはなされていない。
- ②答申では、特に、各大学に「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の活用が求められているが、この活用方策は一律に限定されるものでなく、私立大学が個々の建学の精神に基づく教育方針に基づいて、個別選抜においても独自の学力テストを行うことができるよう担保されてしかるべきである。
- ③大学入学者選抜で問う力について、高等学校までに身に付ける能力と、大学教育を受けるために問われる能力とは異なるものではないかと考える。答申での高大接続改革に関する記述では、上述したように学校教育法に規定された「学力の三要素」との明確な関連付けがなされている。小・中学校段階の「確かな学力」を、高等学校教育はもとより大学教育でも「学力の三要素」として、同じ延長線上で論じてよいのかといった懸念がある。この点についても、各大学の建学の精神に基づく個別大学の教育方針に応じて柔軟に考えることが肝要である。

今後、専門家会議等における新たなテストの内容及び実施方法等の検討に際しても、今一度、慎重な議論をお願いしたい。

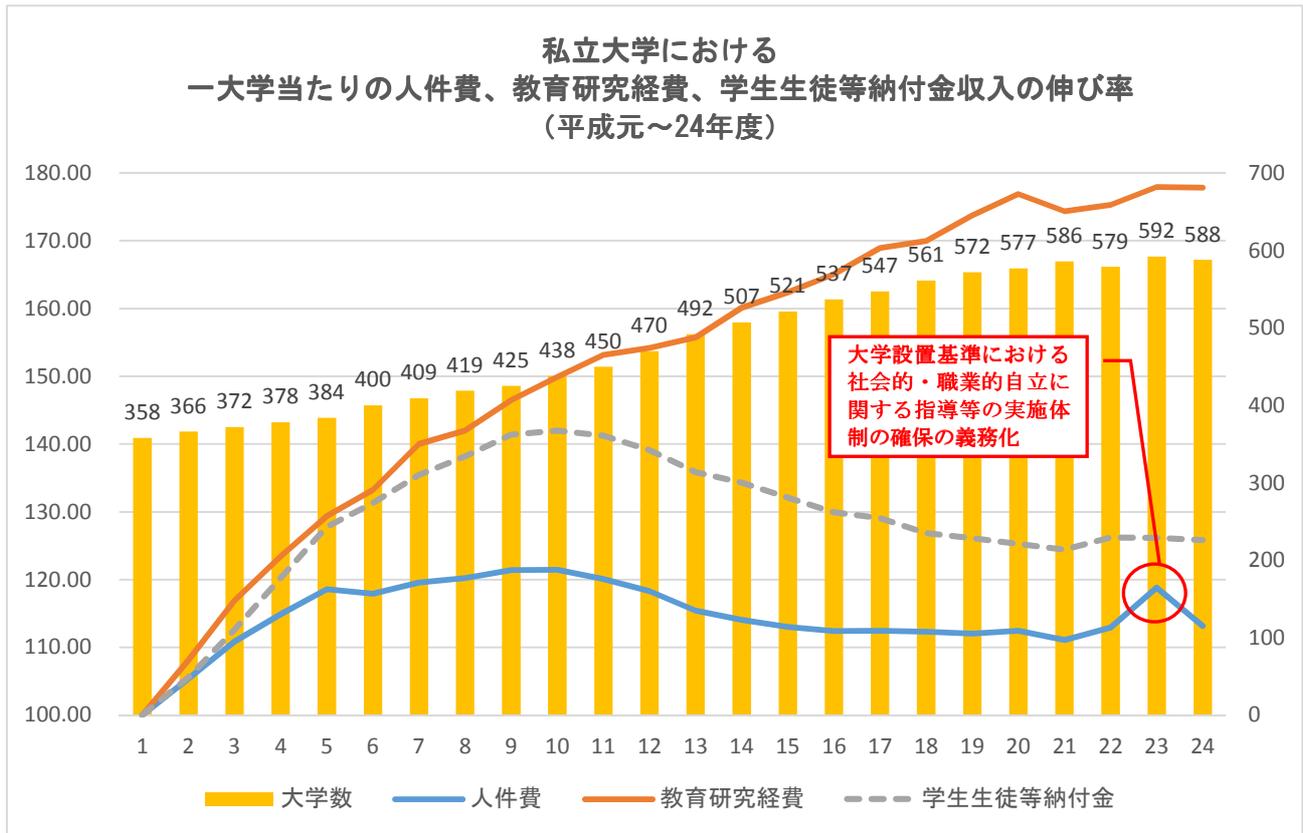
## (2) 私立大学の選抜における多様性の確保

今般の高大接続改革のための具体的方策の検討に際しては、わが国の大学数の約8割を占める私立大学が対応できない限り、真に実効性の高い改革はなし得ない、ということをもまず念頭に置かなければならない。

各私立大学が、多元的評価を重視した個別選抜を実現し、小論文や面接、その他の方法により、入学希望者全員の多様な能力を評価する丁寧な選抜を行うためには、アドミッション・オフィスの設置や専門のアドミッション・オフィサーの雇用など、組織的整備が必要となる。アメリカ合衆国では、アドミッション・オフィサーは事務職員であるが、わが国では教員が担当することが当然と考えられており、現状の認識のまま丁寧な選抜を拡大するならば、国立大学に比べて格段に少ない私立大学教員の負担が過重となることが憂慮される。いずれにせよ、ヒト、モノ、カネにかかる負担が極めて大きくなることは必至である。

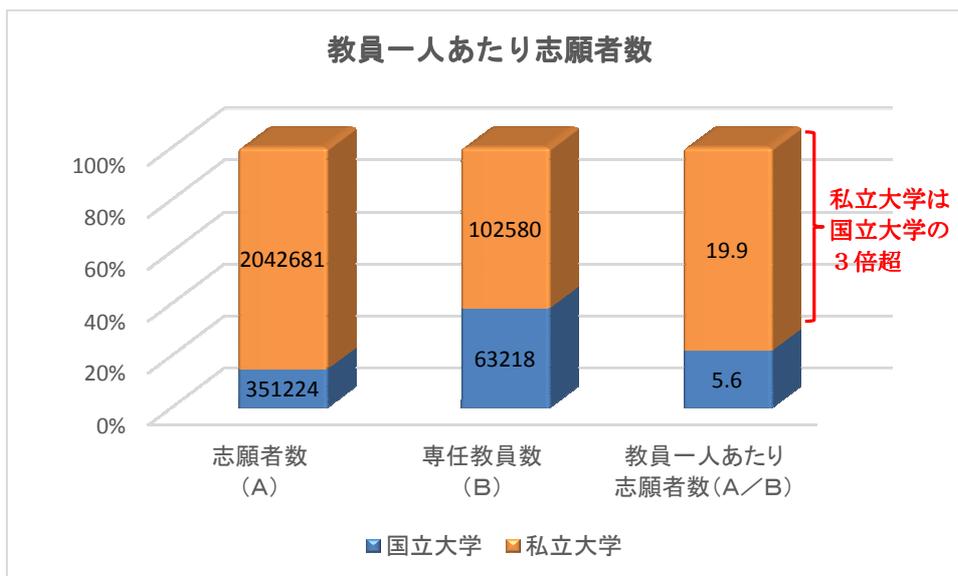
各私立大学は政府による公財政支出が一向に増加しないなか、自助努力によって授業料等の引き上げを最小限に抑えつつ、人件費の抑制を図り、その一方で、教育研究経費の充実を実現させてきた。そうした中であって、平成23年度の「大学設置基準における社会的・職業的自立に関する指導等の実施体制の確保の義務化」により、人件費が著しく増加したことから明らかなように、政策面にかかる制度改革が私立大学経営に与える影響は大きく、とりわけ私立大学の収入面に多大な影響を与える入学者選抜にかかる制度改革が与える影響は計り知れない。こうした実態を認識いただくとともに、私立大学の教育の独自性の確保という理念的な観点から考えても、また私立大学の多くはすでに筆記試験による一般入試だけでなく、高校長推薦入試、AO入試、帰国子女入試など多様な選抜をおこなっていることにも鑑みて、選抜方法の工夫や移行の範囲は、各大学に委ねられるべきである。

【図1】



出典：日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政(大学・短期大学編：大学部門)」

【図2】



出典：河合塾 2014 年度入試国公立大／私立大学入試結果  
文部科学省「平成 25 年度学校基本調査」

## 2. 私立大学における新テストの活用方法

すでに述べたことを総合して考えるならば、入試改革、つまり新テストを活用した入学者選抜の導入は、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」への完全移行を、すべての私立大学に義務付けるという形ではなしえないものとする。各大学が、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を部分的に活用しながら、学生募集単位に応じた少数科目による専門試験を課すこと、あるいは、入学者選抜の一部で小論文や面接等による評価を導入するといった多様性の拡大こそ、私立大学の入試改革の方向性であるべきと考える。

入試の多様性拡大は、従来とは異なる層の学生を選抜することも期待できる。ここでは、私立大学で実施されている、多面的・総合的な特別選抜の事例を紹介する。

### 中京大学（国際英語学部）

**制度** AO入試（英語プレゼンテーション入試）  
**募集人数** 15名（学部定員171名）  
**制度目的：**国際英語学部の人材養成目的・教育内容について深く理解した上で、本学部で学びたいと強く希望している学生、大学レベルの講義に積極的な参加が期待できる基礎力を有し、情報を的確に整理、分析して表現できる学生を入学させる。

#### 選考方法：

- ・1次選考：事前提出のエントリーシート（Ⅰ志望理由書[日本語1000字程度]、Ⅱ学びたいことや将来の夢について[英語500字程度]）により選考
- ・2次選考：英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行い、国際英語学部で学ぶ意欲と英語能力を総合的に判断し評価。
- ・プレゼンテーションは英語でスピーチ（5分以内）、質疑応答は英語・日本語で行う（20分程度）

### 中京大学（経済学部）

**制度** 一芸一能推薦入試  
**募集人数** 5名（学部定員309名）  
**制度目的：**高校時代の課外活動の実績を重視し、大学入学後も何事にも一生懸命取り組む学生を入学させる（スポーツ・社会活動・文化・芸術型）。

#### 選考方法：

- ・出願書類、小論文（60分）、面接による総合判定

### 広島修道大学（人間環境学部）

**制度** AOインターアクション入学試験（講義コミュニケーション方式）  
**募集人数** 他の2方式とあわせて17名  
**制度目的：**広島修道大学を第一志望とする専願入試。自己推薦で受験ができ、自分の意欲や能力、特技を直接アピールできることが特徴。

#### 選考方法：

- ・講義受講後に各自テーマを設定し、講義の約1週間後に行われる教員との個別相談（テーマの確認や資料準備等について）を行った上でテーマ選定理由書を提出する。
- ・事前提出書類（テーマ選定理由書、テーマに関する報告書等）をもとに、面接や集団討論など多彩な試験内容となっている。

### 広島修道大学（商学部）

**制度** 一般・センター併用入試  
**募集人数** 商学科3名、経営学科3名  
**制度内容：**一般入試（前期日程）と大学入試センター試験の成績を合わせて合否判定する入試。

#### 試験科目：

- ・大学入試センター試験  
 英語(100点)＋国語(100点)＋選択科目(200点)
- ・一般入試（前期A・B・C日程）  
 英語(100点)＋国語(100点)＋選択科目(200点)  
 合計800点

### 国際基督教大学

**制度** 一般入学試験の「総合教養 (ATLAS)」科目  
**募集人数** 一般入学試験 A方式：290名 / B方式：10名  
**制度目的**：2015年度より一般入学試験は新しい入試制度へ変更。「総合教養 (ATLAS=Aptitude Test for Liberal ArtS)」は、ICUのリベラルアーツ教育の世界を俯瞰する地図。ICUから受験生へのメッセージとしている。

#### 選考方法：

- あるトピックについて15分程度の短い講義 (ミニレクチャー) を聴きそれに関する学際的な設問に解答。
- その後、講義トピックについて人文科学、社会科学、自然科学の観点からの論述等を読み、それぞれの設問に解答。
- これら4つの領域における設問は合計40~45問。試験時間は講義部分を含めて80分。

### 慶應義塾大学 (文学部)

**制度** 自主応募制による推薦入学者選考  
**募集人数** 120名  
**制度目的**：一般の学力考査とは異なった視点・尺度を導入することで、さまざまな資質を持ち、慶應義塾大学文学部への志望動機が明確で意欲的な者に入学への道を開く。

#### 選考方法：

- 「調査書」、「評価書」、「自己推薦書」、「総合考査Ⅰ」、「総合考査Ⅱ」により選考。
- 総合考査Ⅰ：小論文形式。各種資料に対する理解力、文章構成・表現力、分析力等を総合的な視点から考査 (120分)。
- 総合考査Ⅱ：与えられたテーマについての記述を評価 (60分)。

### 津田塾大学 (学芸学部英文学科)

**制度** 特別入試 (AO方式)  
**募集人数** 10名  
**制度目的**：英語力、日本語力に優れ、社会に貢献する意識をもつ学生を対象として実施。書類選考、筆記試験、グループ面接など、さまざまな角度から、受験生の力をこれまでの入試方式とは異なる尺度を用いてみていく。

#### 選考方法：

- (1) 書類選考 (1次選考)：志望動機書 [1200字以内]、事前提出課題 (「ことば」に関連するテーマを定め、自らの体験をふまえて論じる [1500字以内]) を含む提出書類により選考。
- (2) 筆記試験およびグループ面接 (2次選考)：筆記試験は「小論文 (英語を読み日本語で論述)」 (100分)、「課題作文 (英語のビデオ教材を視聴し、課題に答える)」 (80分)。

### 津田塾大学 (学芸学部国際関係学科)

**制度** 特別入試 (AO方式)  
**募集人数** 15名  
**制度目的**：国際関係学科の特長に魅力を感じ、国内外で起こっている事象に深い関心を持ち、情報整理、問題抽出、表現力、対話力といった自分自身の能力を磨きたいと思う受験生を求めて実施。

#### 選考方法：

- (1) 書類選考 (1次選考)：志望動機書 [1200字以内]、事前提出課題 (「世界」の問題についてテーマを定め、関連する3つの著作をあげ、その内容に触れる [2000字以内]) を含む提出書類により選考。
- (2) 筆記試験およびグループ面接 (2次選考)：筆記試験は「現代世界に関する小論文 (60分)」で国際関係を学ぶうえで必要な基礎知識・思考力・表現力を問う。

### 津田塾大学 (学芸学部国際関係学科)

**制度** B方式入試  
**募集人数** 25名  
**制度目的**：本学の教育の柱である「書く力」を見るために小論文を課す入試方式。

#### 選考方法：

- 大学入試センター試験と個別学力試験 (小論文) の総合点で選考。
- 大学入試センター試験：外国語、国語を必修、地理歴史、公民、数学より1科目選択。
  - 個別学力試験 (小論文)：海外の新聞、雑誌等に掲載された論文、論説文 (英文) を読み、その内容に関して自身の考えをまとめる。英語の理解力を必要とする (120分)。